

第11回 食香粧研究会シンポジウムにおける研究成果報告

ケストースの生理機能に関する共同研究成果2題が、2017年11月10日（金）に開催された第11回食香粧研究会シンポジウムにて発表されました。

〔開催日〕

2017年11月10日（金）

〔演題1〕

ケストースがアレルギー疾患に与える影響

〔発表者関連研究機関〕

東京農業大学、東海大学、国立病院機構福岡病院、せんだい耳鼻咽喉科、物産フードサイエンス

〔発表概要〕

乳幼児アトピー性皮膚炎および成人に於けるアレルギー性鼻炎は共にI型アレルギーに分類される疾患である。ケストースを上記アレルギー性疾患患者に各々摂取させたところ、両アレルギー疾患それぞれに対し改善効果を示した。またアレルギー症状の改善と腸内細菌叢の関係を調べたところ、アトピー性皮膚炎の改善とアレルギー疾患の改善への関与が報告されている酪酸産生菌 (*Faecalibacterium prausnitzii*) の増加との間に正の相関が示された。

従って、ケストースのプレバイオティクスとしての働きにより酪酸産生菌を増加させ、腸内の酪酸濃度を上昇させることにより、上記アレルギー疾患に関する改善効果が示唆された。

[演題2]

ケストースがインスリン抵抗性に与える影響

[発表者関連研究機関]

名古屋大学、東京農業大学、物産フードサイエンス

[発表概要]

ケストースによるインスリン抵抗性への影響を検討するため、ラットにケストースを含有させた食餌を与え4週間飼育した。その結果、ケストース含有食の摂取は、血糖値に影響を与えなかったが、血中インスリン濃度を有意に低下させた。また、ケストース含有食を摂取させたラットにおいて、盲腸内容物中の乳酸および酪酸が有意に増加し、盲腸内の *Bifidobacterium* 属および *Clostridium* cluster XIVa の有意な増加が見られた。

※インスリン抵抗性…肝臓や筋肉などにおいてインスリンが正常に作用しなくなった状態。インスリンは食事摂取による血糖値上昇によって分泌され、血糖を細胞に取り込むよう作用するが、インスリン抵抗性が増大すると血糖の細胞への取り込みが起きにくくなり血糖値が下がりにくなる。

[お問い合わせ先]

物産フードサイエンス株式会社 研究開発センター
TEL : 0562-55-1629

